

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立桑名高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>普通科、理数科、衛生看護科、衛生看護専攻科および定時制課程を設置する本校の特色を生かし、「桑名から 強くはばたく 人づくり」を目指します。</p> <p>そのために</p> <p>① 地域社会や保護者の多様なニーズに応じて、桑員を支える学校の責務を果たします。</p> <p>② 課程、学科の特色を生かして、多様で魅力ある学校をつくります。</p> <p>③ 長い歴史と伝統を強みとして、公教育への信頼を一層向上させます。</p>
		<p>☆桑名から</p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p>☆強くはばたく</p> <p>② 地球の未来への先駆者となる科学技術人材になれるよう、生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>☆桑名から</p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p>☆強くはばたく</p> <p>② 地球の未来への先駆者となる科学技術人材になれるよう、生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
	ありたい 教職員像	<p>☆人づくり</p> <p>④ 生徒の思考力・発信力を高め、豊かな人間性を育む教育実践を行っている状態</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>○生徒 学力向上・充実したクラブ活動・楽しい学校・希望進路の実現</p> <p>○保護者 社会性・安心安全・学力向上・クラブ活動・希望進路の実現・社会的自立・楽しめる学校・一人ひとりを大切に作る学校</p> <p>○地域社会 地域の誇りとなるリーダーシップや協調性を持つ人材育成や社会貢献一層信頼できる学校</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>○大学 知的好奇心やコミュニケーション能力の高い生徒の育成</p> <p>○中学校 特色の明確化、中学校への情報提供</p> <p>○教育産業 ニーズの明確化</p> <p>○保護者 学校の現状・方針等の情報提供と参画の機会</p> <p>○地域社会 地域活動への参加</p> <p>○病院等 地域医療への関心</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>○大学 高大連携による情報提供</p> <p>○中学校 中高連携による意思疎通</p> <p>○教育産業 ニーズに合った情報提供</p> <p>○保護者 学校と連携した家庭教育</p> <p>○地域社会 地域の教育力の活用</p> <p>○病院等 学校との密接な連携</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・桑名高校には既に多くの芽が育っているので、もっと大きく実らせることが可能と思われる。今後の発展の方向としてICTの活用、外部との連携、学習者自身の参加協力を進めてほしい。 ・公立高校でありながら生徒個々に手厚く指導されている事に感銘を受けている。中学生だけでなく保護者にも桑名高校の魅力が伝わる方策について検討されることを期待したい。 ・教職員の業務精選や多忙化解消のために課題を整理し、業務のICT化も含めて今後の取組に期待したい。 ・今後も種々の危機に対して迅速な対応がとれるよう、危機管理体制の確認と随時見直しをされることを期待したい。
		<p>生徒が様々なことに興味関心抱くよう支援するほか、グローバルに活躍する人材を育てるため、ICTを活用して外部と連携した学習の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ取組を進めていく。</p>
(4) 現状と課題	教育活動	桑名高校の魅力が社会に広く伝わるために情報発信の方法を工夫する。また、教職員の多忙化解消のために、業務のICT化等を含めた業務の精選を進めていく。
	学校運営等	

3 中長期的な重点目標

教育活動	① 生徒の主体的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図るため、 教科指導の充実とICTなどの活用を含めた授業改善 を進めます。
	② 入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図るとともに、勤労観や職業観を身につける キャリア教育を体系的に推進 します。
	③ 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の 豊かな人格形成 に取り組みます。
学校運営等	① 教職員の助け合い・教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む 組織力ある学校づくり を推進します。
	② 学校・家庭・地域等との連携を強化し、本校の教育活動を広く地域に発信し、 開かれた学校づくり に努めます。
	③ 総勤務時間縮減に向けて業務を精選するとともに ICTの活用 を推進し、多忙化解消に努めます。
	④ 種々の事案に対して適格な対応がとれるよう 危機管理体制の整備 に努めます。

	<p>どで生徒に伝えることで、学習への意識改善と指導の見直しを図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科と連携し、時期に応じて成績層別指導を行い、学習意欲、進路意識を高めます。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。) ・11月実施の進路協議会で普通科と理数科生徒が各自のキャリア(職業選択)を視野に入れた的確な文理選択及び志望校選択が行われているかを確認します。 ・12月実施の衛生看護科の実習で、その取り組みの中から進路意識の高揚を確認し、将来設計を促します。 <p><2学年></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核学年として、学校行事や部活動において中心的役割を自覚させ、責任感を持って行動できる判断力を育てます。また、分掌と連携し、課題研究や進路研究などについて指導し、積極性や高い進路意識を育てます。 ・2学年の課題である「学習の中だるみ」を最小限に迎えるために、学年集会、学年通信、個人面談等で学習方法の改善や学習時間確保を指導します。 ・定期考査、模試等の成績分析から定着度が低い分野を把握し、指導の見直しを図ります。 ・教科と連携して、適切な時期に成績層別指導を行い、学習意欲を高めます。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。) ・11月実施の進路協議会で普通科・理数科生徒の的確な科目 選択および志望校選択が行われているかを検証することで、進路意識を高めます。 ・衛生看護科臨地実習における医療現場の学びから、進路意識を高めます。 <p><3学年></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策による行動制限があるなかで、難しい状況の中ではあるが、各教科担当や分掌の協力の下、情報収集に努め、生 	<p>50%を超えたが、休日4時間以上で50%を超えたのは5月1回にとどまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実習では、全ての生徒が意欲的に取り組むことができ、健康な状態についての知見を深めることができ、来年度の実習につなげることができた。 <p><2学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、桑高祭・体育大会が中止されるなど残念なことが重なった。課題研究は活動時間が少ないなか、生徒の努力により一定の成果をあげた。教科指導に関しては各担当の平素からの粘り強い指導により進路実現に向け学習意欲が高まっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・平日に関して5月実施が61.4%、9月実施が67.1%と目標を達成した。休日は5月実施が55.1%と目標を達成したのに対し9月実施が14.6%と大幅に減少した。コロナ禍における休校中の学習指導の難しさを痛感した。 ・個々の生徒に対し詳細な検討を行い、それをフィードバックし進路意識を高めた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う多くの制約のある中、校内での実習を併せて行うことにより無事実習を終えることができた。 <p><3学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現のため、定期の個人面談に加え、必要に応じて随時面談を行なった。また、要所で学年集会を持ったり、進路に関する発刊物で適確な情報提供に努めることができ 	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p>
--	---	--	---

	<p>徒一人ひとりの進路実現を援助できるように、丁寧な個人面談、進路意識を高める学年集会を実施します。また、学年通信および掲示物の発刊による細やかな情報提供に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や模試等の成績分析から定着度が低い分野を把握し、授業や課外授業での指導に反映させて改善を図ります ・衛生看護科の臨地実習が進路実現に向けた有意義なものになるように、事前、事後の指導を計画的に実施します。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や校内外の研修・活動を通して社会科学、自然科学への関心を高め、将来的に地域社会のリーダーになれる資質を身につけさせます。 ・本校生徒の多くが志望している国公立大学の合格者が、普通科・理数科の卒業生数の4割以上を目指します。 ・衛生看護科の生徒について、臨地実習中の様子や実習日誌・レポートの提出状況から進路意識の高揚を確認します。 <p><衛生看護科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験合格100%を目標とします。 ・看護師としての社会人基礎力を身につけるために、社会情勢に目を向け、広い視野と関心を持って学ぶ姿勢を養います。 ・自主的、主体的な学習習慣を確立し、学び続ける姿勢を育て学力の向上・定着を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常から思考や判断プロセスを問うような学習課題を提示し、自らの思考の基で判断する機会を増やします。 ・産業教育における事業、臨地実習施設行事、ボランティア行事等への積極的参加、ICTの活用等により、幅広い知識と現場体験に基づく気づき等を大切にします。 ・専門領域の充実と、職業観育成のために外部講師を招いてキャリア教育の充実を図ります。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の充実を図り、多方面からの情報収集、科学的な根拠づけ、倫理的配慮に基づいた内容であるかを評価します。 ・学習課題の充実を図り、期日厳守生徒の割合が100%になることを目指します。 ・行事の参加後は必ず振り返りシートを記入し、体験をもとに次なる課題を見いだせるようにします。 	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模試等の成績分析から対策を図り、10月模試の結果では改善を図ることができた。 ・導入2年目の共通テストでは問題の難化に対応しきれたと言えない結果であり、得点が伸び悩んだ生徒の出願指導が難しかった。 ・衛生看護科では、コロナ禍での臨地実習が難しかった。病院実習や校内実習では責任を自覚して取り組み、医療に従事する自覚につなげることができた。 <p><衛生看護科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習の中止や大幅な変更に伴い、現場での学びや社会に触れる機会は減少したが、メディアを通じて、医療を身近に捉え、考える機会を生徒一人一人が持ち、自主的な学びにつながった。 ・行事等の中止や規制がある中で、今の環境下でできることに取り組み、今の社会情勢を考えることにつながった。 ・外部講師の方にも協力を得て、リモートでの授業を充実させ、学習の充実を図れた。 ・専攻科の校外研修では、行き先の変更に伴い、急な依頼にもかかわらず、施設の協力のもと、地域医療について新たな学びの場を得ることができた。 	<p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p>
--	--	---	----------------------------

<教務部>

【活動指標】

・教員間における「授業公開週間」を年に2回設定し、相互に意見交換することにより授業内容および指導力の向上を図り、ひいては生徒の学力向上へとつなげます。そのために、教員としての経験年数に関わらず互いに授業を見せ合うことで指導力がブラッシュアップされることを周知し、ひとりでも多くの教員が前向きに取り組めるような環境作りに取り組みます。

・事情により授業が自習になることが事前にわかっている場合は、極力授業の振替等を行うことで、生徒の授業時間の確保に努めます。そのために、教員からの出張や年休の情報をできるだけ早く集約することで、授業変更を早く、無理なく行います。またやむを得ず急な変更になる場合は、当該教科・学年と連携して迅速かつ適切に対応します。

・来年度入学生より実施予定の「新しい観点別評価」の構築、および新書式の「指導要録」への移行作業をスムーズに進めます。そのために、教務委員会等で各教科との議論を重ねていきます。

【成果指標】

・教員の授業公開への参加数について、各回10名以上を目指します。
・自習になることが事前にわかっている授業について、変更できずにやむを得ず自習になる時間を、1ヶ月あたり5時間以内になるように目指します。

<総務部>

【活動指標】

・人権便りの年5回以上の発行、人権講演会や人権LHRの実施を通して、①差別に気づく豊かな心を育みます。②人権問題を仲間と共に学び、お互いの気持ちを理解し合い、認め合えるようにします。③問題解決やよりよい方向を目指して、協調性と積極性を持って取り組めるようにします。

【成果指標】

・人権講演会・人権ロングホームルーム後の感想・アンケートにおいて、肯定的な意見・感想などが95%以上を目指します。

<生徒指導部>

・心身の成長期にふさわしい基本的な生活習慣を確立させます。また、自主、自律した社会生活が送れるよう高校在学中に指導するとともに、交通事故の防止、社会や時代の変化に伴う様々なリスクに対する危機管理能力を身につかせます。

<教務部>

・コロナ禍の状況を考慮し、学校一斉の授業公開が実施できなかったが、一部の教科において教員間で授業評価を実施した。

・2学期以降の全自習時間数は月20時間を超える場合もあったが、急な自習であったり、講座編成上授業変更できない場合も多く、やむを得ないと考える。

・評価方法の根幹部分を整理し、各教科でシミュレーションを始めた。細部については現在も検討中である。また、指導要録の「別記」については、情報部と連携して要点を整理し、担任の入力作業が円滑に行えるように工夫した。

<総務部>

・11月、全校生徒を対象にして「ハンセン病」をテーマとして「人権講演会」を実施した。講演を通してコロナウイルス感染症における差別についても考えさせた。

・人権LHRを3年生は6月、1・2年生は1月に実施した。アンケートの結果、多くの肯定的な意見があった。

・人権便りを、年2回発行した。

<生徒指導部>

・始業式や終業式の際に各学期で気になった改善点を話し、注意を促すことができた。

・平常授業時には、毎朝、校門(正門、北門)に立ち、生徒への声かけを行った。

また、「Formal Week」で挨拶指導や服装指導を重ねて行い、昨年より大きな声で挨拶し、正しい制服の着こなしができる生徒が増えた。

【活動指標】

- ・平常授業時には毎朝8時から校門（正門、北門）にて挨拶指導、服装指導、遅刻指導、自転車通学生の安全指導を行い、社会や学校の規則、マナーを守る習慣を身につけさせます。
 - ・校内では挨拶の励行、身だしなみを整える「Formal Week」を月に1回（5日間）実施し、品位ある桑高生を育みます。同時に、通学路にて交通安全指導を行い交通事故防止や交通ルールを厳守するよう指導を行います。そして年3回全職員体制で頭髪服装指導を実施し、身だしなみを整える指導を行います。
 - ・月間生活努力目標を設定し、生活の基本様式（身だしなみ、正しい規範意識、挨拶、いじめ防止など）を身につけさせ集団の中で生活できる能力を育てます。また全教員で共通理解を持って一貫した生徒指導を行います。
- 4月、11月はいじめ防止強化月間とし、ピンク色の物を職員及び生徒が身につけていじめ防止を啓発していきます。
- ・いじめアンケートを年3回（7月、12月、3月）実施して、いじめの実態把握に努めます。
 - ・2022年度（令和4年度）からの新制服運用を視野に入れ意見集約と議論を行い、新制服のデザイン、運用方法について検討を進めます。

【成果指標】

- ・生徒から大きな声で挨拶が日常的にできるように指導していくことを目標とします。
- ・式典や集会等はもちろんのこと、日常的に身だしなみ（正しい制服の着こなし）を整えさせることを最大の目標とします。特に女子生徒のスカート丈においては適正な長さ（膝の真ん中より下）での着用を定着させることを重点課題とします。
- ・校内でいじめを絶対にゆるさないという意識を高め、他人を大切に思いやる心の育成を目標とします。

4月、11月のいじめ防止月間では生活委員、生徒自治会役員、教職員共にピンク色の物を身につけていじめ防止啓発を行い、年々意識の向上が感じられる。

遅刻寸前の生徒については「カウントダウン指導」を行うことにより、時間を意識して行動する生徒が増えた。自転車の乗り方については多くの課題はあるが、安全に乗りようとする気持ちが出始めている。

・頭髪服装指導では、爪の伸びすぎ、校章やスカーフ忘れ等の軽微な違反はあるものの、パーマや染色といった頭髪加工やピアスといった継続指導が必要な生徒は年間1~2名と減少した。

・昨年度に引き続き重点的に行った正しい制服の着こなし指導については、女子生徒のスカート丈が校則通りにほぼなりつつある。今後も、生徒指導部が主体となって正しい制服の着こなしを自らできるように指導していきたい。

・月間生活努力目標については時期や生徒の実情に応じて適切に設定し、発信できた。また、教職員を含めて生徒指導の意識が高まり良い効果をもたらした。

<今年度1月までの月間努力目標>

4月 いじめ防止強化月間「みつめようスマホじゃなくて人の心」

5月 新型コロナウイルス感染拡大防止

「鯉のぼり泳ぐ力は向かい風」

6月 心の交流を深めよう

「ふわふわ言葉と思いやりの行動」

※ふわふわ言葉＝ありがとう、すごいね、上手だね、頑張ってるね、等

7月 交通事故防止月間

「交差点 止まる習慣 事故は瞬間」

8月 規則正しい生活を送ろう

「早寝 早起き 朝ご飯」

9月 大きな声で自分から挨拶をしよう

「挨拶は桑高の未来」

10月 スマートフォンの使用時間を減らそう

「画面見ないで顔面見よう」

11月 いじめ防止強化月間 ※ピンク色の物を身につけて啓発拡大

「思いやり助け合いが絆生む」

12月 交通事故防止

①もしかして（危険予測）

②とまる（一時停止）

③みる（安全確認）

④まつ（安全確保）

	<p><進路指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に注意しながら、生徒の進路決定に必要な情報を、適切な時期に提供できるように努めます。 ・キャリアデザインという観点で、状況に応じて様々な講演会やオープンキャンパスに参加を促し、各大学が提供する講座や実験の機会を紹介してコース選択や志望校決定の一助とします。 ・2年目となる大学入学共通テストへの対応がスムーズにできるように、全職員に共通テスト研究や対策を進められるよう努めます。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内大学説明会で、対面で出来るものは感染防止に努めつつ実施し、出来ないものはオンラインで実施を試みます。 ・難関大学の中でも志望者が多い名古屋大学への進学対策講座「名大チャレンジサポート」の内容を吟味し、結果に繋がるように工夫をして進めます。 ・「進学の手引き」「進学だより」「大学レポート」等を使って、年毎に変わっていく受験環境を正確に生徒、保護者、そして教職員に伝えます。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート結果において「満足」への回答が7割以上。 ・国公立大学現役合格者が普通科・理数科卒業生数の4割以上 →過去8年連続達成。 ・名古屋大学合格者数が現浪合わせて15名以上。(去年は12名) ・難関国立10大学と医学部の現役・浪人合格数が20名以上。(去年は23名) ・3年生4月調査の第1志望校に合格の生徒が普通科・理数科卒業生数の2割以上になるように努めます。特に難関大学や医学部志望者には、浪人してでも初志貫徹できるように指導します。 ・衛生看護科(専攻科)においては、年度末に行なわれる看護師国家試験に、高い合格率を保つよう努力します。 	<p>⑤たしかめる(再確認)</p> <p>1月 年始め大きな声で挨拶を 「挨拶は桑高の未来」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服の改定については同窓会やPTA等の理解が得られ、伝統ある桑名高校にふさわしい新制服ができあがった。 <p>※令和4年度から採用</p> <p><進路指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年も続くコロナ禍における様々な入試状況に臨機応変に対応した。また現状で注意すべき点などを進路ガイダンスや合同保護者会等で分かりやすく伝えられた。 ・キャリアデザインという観点ではコロナ禍の合間を縫いオンライン形式を含め、校内講演会や三重大学セミナーに生徒が参加した。 ・3年生の名大チャレンジサポート、医進対策は各教員が工夫を凝らして、効果的に行なった。 ・様々な制約下でも1・2年の難関大ガイダンスは、外部講演者などを上手く使い、難関校を目指す“志”を持たせる取組みが実施できた。 ・オープンキャンパスは今年もオンラインが主流であったが講演やセミナーなど生徒が参加できるよう、こまめに情報を提供した。 ・成果指標については、今年度も国立難関10大学(名大・東北大・北大・九大・神戸大)と医学部を含んで16名が合格した。国公立大学合格者総数では、171名と普通科・理数科卒業生数の5割以上が国公立大学に合格している。指標の4割以上は9年連続達成している。 ・名古屋大学合格者は、現役で11名であった。 ・看護師国家試験は全員合格し、今年も100%の合格率を達成した。 	<p>◎</p> <p>◎</p>
--	---	---	-------------------

(昨年も全員合格し、100%の合格率を保ちました)

<保健部>

【活動指標】

- ・心身の健康について考え、生涯を通じて自らの健康を適切に管理できる資質や能力を育てていきます。
- ・感染症予防に対する取組を強化していきます。
- ・症候群サーベイランスシステム等を用いて、生徒の心身の健康状態を把握し、問題の早期発見、早期対応に取り組みます。
- ・「桑高ほけんたより」を年間10回以上グーグルクラスルームにて配信します。
- ・「いのちの教育」について、生徒対象講演会を年1回以上実施し、アンケートによる確認をします。
- ・「学校保健ニュース」など、毎月、保健に関する話題を発信します。
- ・教職員間で情報共有を密にし、スクールカウンセラーや学校生活スペシャルマネージャーをはじめ関係機関と連携を取って、生徒・保護者への相談支援活動の充実に努めます。

【成果指標】

- ・生徒の感染症予防に対する意識の向上や、行動の変容につながる指導をし、生徒の健康観察アプリへの入力を学年団との連携を図り100%を目指します。

<情報部>

【活動指標】

- ・ICTを活用できる学習環境の更なる整備を行うとともに、生徒・教職員向けに、授業や講習会等で情報教育を推進します。
- ・新型コロナウイルス感染症等により通常授業の実施が困難な場合に備えた生徒のオンライン授業環境の整備を図ります。
- ・生徒・教職員が利用するバイタルデータ管理システムの円滑な運用を行います。

<図書部>

- ・学校図書館の意義と利点を知り、利用方法を習得し、生涯教育の場となる公共図書館等の利用につながるよう支援します。
- ・学校全体に良い影響を与えることが出来るように、図書委員会活動を活性化させて親しみやすい学校図書館を目指します。
- ・生徒の需要に合わせて、さらに、保護者、地域社会、国際社会、医療現場、高等教育機関、中学

<保健部>

- ・概ね達成することが出来た。

- ・健康観察アプリにおいては毎日 90~100 人ほどの生徒が入力できていなかった。今後は、もしもの時の対応が素早く出来ることを理解させ、アプリへの入力の徹底に取り組む。

<情報部>

- 今年度は GIGA スクールサポーターの協力により、ICT を利用した効果的な授業実践の技法について教職員向けに講習会を実施することができた。生徒向けのオンライン授業環境について、夏季休業明けに一斉オンライン授業となったが、本校は比較的早期に想定していたことから、円滑に実施することができた。

<図書部>

◎

※

◎

◎

校等が求める人材育成のための蔵書の充実に努め学習の場を提供します。

【活動指標】

- ・「図書館だより」を年10回発行し展示します。
- ・新入生を対象に図書館オリエンテーションを実施します。
- ・図書委員が蔵書に親しみ利用者と交流します。
- ・生徒の需要を具体的に知り、リーダーシップや協調性を持つために必要な高い人権意識と異文化理解力を育むための書籍や科学技術人材に必要な書籍を備えるよう努めます。

【成果指標】

- ・「図書館だより」により生徒の読書への興味関心を高めます。
- ・1学年全クラス計320人に ICT を利用して図書館オリエンテーションを行います。
- ・図書委員が ICT を利用した蔵書管理を行い利用者の対応をします。文化祭に参加し認知度を向上させます。また、読書感想文コンクールとビブリオバトルへの参加を呼びかけます。
- ・総合学習(探求・研究)以外の科目でも図書館の授業利用の機会を提供します。
- ・COVID-19 感染拡大防止策をとった閲覧室・学習室を提供します。
- ・生徒が興味を持てる書籍や学習・クラブ活動・趣味・進路決定・SSH 事業等に役立つ蔵書の整備を進めます。

<定時制・学習指導>

- ・社会の変化に対応した「主体的で深い学び」を実現するための教育活動に取り組みます。
- ・キャリア教育を視野に入れた「総合的な学習(探究)の時間」の内容の充実を図ることで、生徒間の対話を深め、「気づき」を促進します。また、様々な体験・経験をすることで、自己肯定感の涵養、生徒の持つ思考力・発信力の向上、協働性とリーダーシップの育成に取り組みます。

【活動指標】

- 1年生:基本的生活習慣の確立
- 2年生:進路実現に向けて勤労と学業の両立
- 3年生:進路実現に向けて自己啓発
- 4年生:コミュニケーション能力の向上と進路実現に向けて

自身で行動する力の育成

- ・1・2年において、国語・数学・英語の3教科で習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の定着及び向上を図ります。
- また、外国籍の生徒についても生活言語はもとより、学習言語の定着に向けてさらに取り組みます。

- ・図書だよりを 10 回発行、展示した。
(9 回発行済み、年度内に 1 回発行予定)
- ・1 学年普通・理数・看護科全クラスに ICT を利用した 50 分の図書館オリエンテーションを実施した。

- ・図書委員が ICT を利用して蔵書管理を行ったり、カウンターで利用者対応をしたり、蔵書に親しめるようラミネート補強したりする活動を援助した。文化祭は中止になり参加できなかった。読書感想文コンクールは 100 名以上が参加し、10 名が入賞した。ビブリオバトルは開催日が、生徒が参加できない日程だったので不参加であった。
- ・4 教科以上の授業利用があった。
- ・換気、消毒、対面を避ける等の感染拡大防止策を実行することが出来た。
- ・生徒職員の需要にこたえる蔵書の整備を進めることが出来た。

<定時制・学習指導>

生徒の基礎学力の定着・向上を目指して、PDCA のサイクルを大切に、「分かる授業」の取組を行った。1・2 学期に 1 回ずつ授業研究週間を実施し、他の教員の授業を見学、自己の授業を改善する機会を設けた。11 月に「学びの基礎学力診断テスト」を全学年 5 教科(各 30 分間)について実施し、各生徒について過去 3 年間の成績データを比較・検討した。結果(平均点/100 点)は以下のとおりである。学力が少しずつ付いてきている生徒もいるが、生徒間の学力差が非常に大きく、引き続き各生徒の特性や能力に適した丁寧な指導が必要である。外国にルーツを持つ生徒についても、学習言語のさらなる定着に向けて指導を継続していきたい。

学年	国語	社会	数学	理科	英語
1年	30	38.3	52.3	34.3	55.8
2年	27.8	30.8	47.2	36.8	42.8
3年	39	40.5	49.7	34.8	40.9
4年	32.1	35.3	41	30.5	40.5

「総合的な学習の時間」については、新型コ

- ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権・進路等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。
- ・学年及び学校全体の目標を設定し、達成に向けて生徒・職員一丸となり取り組みます。
- ・「分かる授業」の取り組みを行います。

【成果指標】

- ・学年及び学校全体の目標達成率が4段階(A～D)で A、B が80%以上を目指します。
- ・生徒授業満足度について4段階(A～D)で A、B が80%以上を目指します。
- ・基礎学力の定着について、生徒個々の学力の向上を目指します。

<定時制・生徒指導>

- ・心身の成長期にふさわしい基本的生活習慣の確立を目指し、自律した生活が送れるように指導を行います。

【活動指標】

- ・無断遅刻や無断欠席をなくし、当たり前のことを着実にできるよう、基本的生活習慣を確立します。
- ・5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を徹底的に指導し、挨拶運動、誰もが気持ちよく挨拶できる雰囲気づくりを確立します。
- ・校則はもちろん、社会のルールを厳守するよう指導を行います。
- ・生活全体を指導できるよう努めます。
- ・連絡先など各諸事情の報告を徹底指導します。

コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、延期や実施内容・方法の変更を余儀なくされたが、年間 35 時間実施することができた。

また、学校全体・学年年間目標を設定し、学年全体で取り組んだ。

()の数字は2学期末の学校生活アンケートで①できた②だいたいできた③ほとんどできなかった④全くできなかった、のうち①と②を合わせた割合を%で表したものである。

[定時制目標]

1. 相手のことを考えて行動する。
2. 遅刻・欠席をしないように努力する。
3. 提出物は期限内に提出をする。

[1 学年]

1. 相手のことを考えて行動する。(100)
2. 欠席・遅刻などは、できるだけしないようにする。(100)
3. 身の周りの整理・整頓をする。(80)

[2 学年]

1. 相手のことを考えて行動しよう。(83.3)
2. 提出物は期限内に提出しよう。(66.7)
3. 遅刻・欠席をしないよう努力しよう。(50)

[3 学年]

1. 休まずにきちんと授業を受けよう。(45.4)
2. 冷静に自分の気持ちを見つめよう。(54.5)
3. 欠席・遅刻のときは必ず学校に連絡しよう。(54.5)
4. 定期試験・課題の提出・再試験、最後まであきらめない。(63.6)

[4 学年]

1. 相手のことを考えて行動する。(91.7)
2. 相手の立場に立って行動する。(91.7)
3. 卒業まで積極的に学習に取り組む。(75)

<定時制 生徒指導>

一昨年度からの継続的な指導(ある一定の回数遅刻をした場合個人的に指導を行う)の結果、遅刻は全体で昨年度より年間 39 件(17%)減った。しかし、依然として欠席や遅刻を繰り返す生徒がいるので引き続き丁寧な指導を行っていきたい。また、生徒指導案件については7件となった。

【成果指標】

- ・無断遅刻・無断欠席件数の前年度より50%減を目指します。
- ・生徒指導案件 5 件以下を目指します。

<定時制・進路指導>

【活動指標】

- ・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、労働に対する意欲を持たせるとともに、主体的に進路を選択できる力を身につかせます。
- ・進路実現に向けたキャリア教育を実施します。
- ・自分探しによる新規開拓を行わせます。
- ・外国籍生徒の就労支援を行います。
- ・大学専門学校等への進学指導を行います。

【成果指標】

- ・生徒の有職率80%を目指します。
- ・卒業後の進路未定者を0人にします。

<定時制 進路指導>

コロナ禍でありながら昨年以上の求人をいただいた。しかし、生徒の希望にマッチするところは少なかった。1月末現在4名が未定となっており、3月末までに全員の進路決定を実現したい。

キャリア教育については、総学(6月:分野別学校説明会、11月:分野別企業説明会)を行い生徒の進路に対する意識の向上に取り組んだが、単に講義を受けるだけでなく、生徒自身が自己の進路について考える時間をもっと設けるべきであった。

生徒の有職率(アルバイト)については、以下のとおりである。

	在籍数	有職数	比率(%)
1年生	5	2	40
2年生	6	4	66.7
3年生	12	9	75
4年生	12	9	75
全体	35	23	65.7

◎

改善課題

○新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた「三重県緊急事態措置」実施にともなう休業期間中は、すみやかにオンライン授業等に切り替えることで学習保証に努めることができた一方、オンラインによる指導では一部の生徒に学習意欲の低下が感じられた。ICTの有効な活用法について研究が必要である。

○県内の新型コロナウイルス感染状況の変化により、衛生看護科・専攻科の臨地実習の延期依頼通知や実習受け入れ施設からの受け入れ制限がかかり、急遽、校内代替実習を余儀なくされた。今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で、臨地実習の実施が困難な状況が続くのであれば、看護師育成のために習得する技能の質の低下をまねかないよう校内代替実習の工夫をしていく。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>重点① 組織力ある学校づくり</p> <p>重点② 開かれた学校づくり</p> <p>重点③ ICTの活用</p> <p>重点④ 危機管理体制の整備</p>	<p><総務部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用等により、朝の打ち合わせや会議時間の短縮に取り組みます。 職員会議等の資料のペーパーレス化によって、印刷業務の削減、紙のコスト削減を検討します。 職員会議の効率的な進行のため、各部学年等からの提案時間を明記するなどし、時間短縮に向けた意識付けをします。 年間1回以上の防災訓練、防災ノートを活用した防災学習に取り組みます。 企画委員会を通して分掌間の連携を図り、組織力を高めます。 明るく開かれた職場づくりに率先して取り組みます。 マネジメント委員会と連携をとりながら、学校行事の見直しや業務内容の精選を図り、教育内容の充実と勤務時間の縮減につなげます。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の打ち合わせの全体連絡5分を目指します。 総務部が関わる会議は1時間以内に終了するようにします。 職員満足度調査について、下記の数値を目指します。 <p>「職員間の対話は活発に行われているか」3.0以上</p> <p>「相談しながら仕事を進めていく体制はできているか」3.0以上</p> <p>「仕事が精査されてきたという実感があるか」2.5以上</p> <p>「定時退校日に定時退校できたか」3.0以上</p> <p><AKP> (AKP=「明るい桑名高校プロジェクト」委員会より)</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員間のコミュニケーションをより活発にし、目指す学校像実現に向けたアイデア、及び業務内容の精査に関する意見を出し合える環境をつくることで、仕事を楽しく感じられる職員連携を構築し、多忙感の解消を目指します。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員満足度調査の重点項目、「職員間の対話は 	<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> グループウェアの活用は、昨年度よりさらに進み、朝の打ち合わせ、会議時間の短縮にもつながっている。職員会議では提案にかかる時間を事項書に記載するなど工夫を加え、概ね1時間程度に収まっている。 また職員会議は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン会議による開催が続いており、会議資料のペーパーレス化にもつながっている。 今年度は桑高祭、体育祭、芸術鑑賞など多くの学校行事が中止になり、生徒にとっても心残りのある一年になったが、今後も感染状況をみながら、万全の対策をとった上でどのような形で実施できるかを模索することが必要になる。 中学生向けの「学校説明会」はホームページによる動画視聴の形で行なった。関係する生徒・教員の協力もあり比較的スムーズに実施でき、視聴後のアンケートも概ね良好であった。実際に足を運んで参加してもらうことができればよいが、次年度もこの形であれば、さらにもう一工夫してよいものになりたい。 総務部内の仕事の精査、業務の多忙化解消に向けてひきつづき取り組みたい。 <p><総務部>・<AKP>合同</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の一環として、仕事の精査を通して目指した。 職員満足度調査結果(2月時点)数値は4点満点で()は昨年度自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。2.5(2.6) 職員間の対話は活発に行われていますか。2.5(2.7) ③同僚と相談しながら仕事を進めていく体制 	<p>◎</p> <p>◎</p>

	<p>活発に行われていますか。」の数値3.0以上を目指します。</p> <p><情報部> 【活動指標】 ・校内における各種リモートシステム環境の整備改善を進め、業務の効率化を図ります。</p> <p><事務部> 【活動指標】 ・生徒や教職員が安全で快適な学校生活を送れるよう、施設整備等の点検・改修を行い、学習環境の整備を行います。 ・予算が伴う要望事項に対して迅速かつ丁寧に対応することにより、学校の活性化を支援します。 ・コンプライアンスを徹底するとともに、チェック機能の強化を図ることにより、適正な事務処理を行います。 ・新型コロナウイルス感染予防対策を的確に遂行します。 ・働き方改革につながる取組を実施します。</p> <p>【成果指標】 ・消防設備等の点検を行い必要な補修を行います。 ・老朽化している本校校舎の長寿命化改修工事を実施します。 ・校内の予算要望項目を広く聴き取り、対応します。 ・毎週事務室の打合せを実施し、業務の進捗状況等情報共有を行うとともに、コンプライアンス・ミーティングを年3回実施します。 ・校内の消毒作業を毎日実施します。 ・年休を前年度以上に取得し、時間外勤務を前年度未満とします。</p>	<p>はできていますか。 2. 9(2. 9) ④仕事が精査されてきたという実感はありますか。1. 8(2. 0) ⑤定時退校日に定時退校できたか 2. 6(2. 6)</p> <p><事務部></p> <p>・老朽化や不具合が発生した施設の改修、法定点検等を速やかに行った。 ・予算化が必要な事項について、県教委と速やかに協議を行った。 ・内部統制リスクマネジメントシートに沿って、チェックを確実に行った。 ・感染防止に必要な物品の調達を迅速に行った。 ・休みやすい雰囲気づくりのため、休暇取得の声掛けを随時行った。 ・必要な点検、補修を行った。 ・本年度計画されている改修工事を円滑に実施した。 ・事務室の打合せを毎週実施し、課題の共有を行った。 ・校内の消毒作業を毎日実施した。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>
<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p><報道機関への情報提供> 【活動指標】 学校の特色を生かした取組については、学校HPへの掲載や報道機関への資料提供することにより、保護者や地域へ発信し、積極的に可視化します。</p>	<p>・戴帽式(11/8 取材依頼を发出、取材はなし) ・植樹祭(11/20 取材あり) ・同窓会奨学金設立(12/22 取材あり) ・専攻科修了式(3/1 取材) ・新制服(11/30 取材)</p>	<p>◎</p>

<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p><全体> (1)行事や取組の精選を進める。 (2)総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。</p> <p>【活動指標】 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 70%以上 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95%以上 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 70%以上</p> <p>【成果指標】 年360時間を超える時間外労働者数 0人 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人</p> <p>1人当たりの月平均時間外労働 25時間以下</p> <p>1人当たりの年間休暇取得日数 12日以上</p>	<p>以下は1月末時点の各項目の実績の値である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校率 R3年度 75.34% R2年度 67.39% ・部活動休養日週1回以上の年間設定率 R3年度 99.3% R2年度 98.7% ・スマート会議実施率 R3年度 65.9% R2年度 64.8% ・年360時間を超える時間外労働者数 R3年度 10人 R2年度 10人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数(1月末) R3年度 134人 R2年度 130人 ・時間外労働の月平均(1月末) R3年度 21時間24分/月 R2年度 20時間48分/月 ・休暇取得日数 R3年度 14.2日(4~1月) R2年度 12.7日(4~1月) 	
---------------------	--	--	--

改善課題

- 教職員全体に Chromebook の基本的な活用スキルが定着し、オンラインによる会議・研修・授業・集会等の実施形態が浸透した。令和4年度からのBYOD本格実施を迎え、教職員のさらなるスキルアップが必要である。
- 本年度末、志願者数の減少傾向がみられた。
- 教職員の時間外労働の対象者数が増加傾向にある。
- 職員間に意見交換する雰囲気の低下がみられる。また、ICT活用の増加や学校行事の減少が職員同士の関係の希薄さにつながる傾向がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTのさらなる活用に取り組む。 ○今後の発展の方向性として、SSH活動の推進や地域・卒業生・中学生など外部と連携しながら生徒が主体となって学習する機会を開拓するなどさらなる魅力づくりや広報活動を工夫する。 ○教員の働き方改革を推進し多忙解消に努める。 ○老朽化した校舎や施設等の更新を計画的にすすめる。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○生徒の実態や習熟度に応じたICTの活用法の研究と実践。 ○SSH活動を中心として、外部と連携した学びの場を開拓する。
学校運営についての改善策	○教員の働き方改革や多忙解消に向けて取り組む。 ○本校の魅力を発信するため、広報活動を推進する。